

社員の安心・安全を守りたい中小企業の経営者・総務部長様へ

本セミナーの対象者

こんなお悩みはありませんか？

- ☑ どこに、何を、どれくらい防災対策をすれば良いかわからない
- ☑ 災害リスクの予測や、自社にとって適切な対策を立てるための情報が不足している
- ☑ BCP(事業継続計画)は策定しているものの、活用が不十分
- ☑ 災害発生時の社内の対応に不安がある
- ☑ 社員の移動中や外出先での被災に備えたい
- ☑ 地域防災への貢献方法がわからない
- ☑ 社員の防災意識が低い

本セミナー、ココが聴きどころ！

- POINT 1 BCPの実用性向上** 災害時の運用を想定し、企業の拠点ごとの特性や多様な従業員の働き方に合わせた事業継続計画(BCP)の策定・見直しが必要であることをご紹介。
- POINT 2 継続的な防災の仕組みを構築** 他県での被災事例を教訓に、自社にも起こりうる最悪のシナリオを具体的に想定することで、いかなる状況下でも機能する備蓄体制の構築事例をご紹介。
- POINT 3 備蓄品の「質」と「管理」の重要性** 単に備蓄品を揃えるだけでなく、期限切れや劣化を防ぐための適切な管理方法、そしていざという時に本当に役立つ「実用性」の高い製品選定がいかに重要かを紹介。
- POINT 4 「防災」を経営の中核に** BCPの策定、備蓄体制構築が、自社のリスクマネジメントに留まらず、地域・社会への貢献につながり、防災を企業成長を支える経営戦略として位置づけることへの意義をご紹介。
- POINT 5 従業員の意識変革と心理的安全性の確保** 備蓄品を従業員一人ひとりに身近なものとして配置することで、防災意識の向上を促し、社員の心理的安全性を高める具体的な効果と事例を紹介。

開催要項

日時・会場 **2026年8月25日(火) 14:00～ 開始**
 東部防災館 おきのすインドアパーク (13:30開場・16:00終了)
 徳島県徳島市沖洲町1丁目8

お申込み方法

【QRコードからのお申込み】 右記QRコードからお申込みください。



東京海上日動火災保険株式会社 徳島支店 徳島支社

本セミナーのお問い合わせ先 【NATSUKI.FUJIE@tmnf.jp (高瀬) / YAOKI.TADA@tmnf.jp (多田)】

【個人情報の利用目的】

お客様の個人情報は、東京海上グループ各社および弊社代理店、東京海上レシリエンス株式会社による運営管理、各種情報提供を目的に使用します。詳細については、以下URLをご覧ください。
 個人情報のお問い合わせ：東京海上日動火災保険株式会社プライバシーポリシー <https://www.tokiomarinehieldo.co.jp/company/about/policy/kojin.html>
 東京海上レシリエンス株式会社プライバシーポリシー <https://www.tokiomarine-resilience.co.jp/privacy-policy/index.html>

経営戦略としての
防災対策

備蓄品革命



山佐ホールディングス株式会社 グループ経営統括本部 執行役員 山本紀久 氏

2025年4月までヤマサハウスにおいて住宅本部長を務め、経営企画部門、商品開発部門、FP提案などを担うFA事業部の統括を担当。また、BCP事務局長として、社内の災害対応体制の整備にも携わる。現在は、山佐ホールディングスグループの経営統括本部長として、グループ全体の経営や事業戦略の推進に従事。

「No.1の自覚と地域の価値探求」の姿勢を持ち、それぞれが「継続的な自己革新」に取り組むこと。

【日時】 2026年8月25日(火) 【会場】 東部防災館 おきのすインドアパーク
 14:00～16:00 (13:30開場) 徳島県徳島市沖洲町1丁目8

主催： **東京海上日動火災保険株式会社** 徳島支店 徳島支社
 後援： 徳島県

本セミナーのお問い合わせ先 【NATSUKI.FUJIE@tmnf.jp (高瀬) / YAOKI.TADA@tmnf.jp (多田)】

予告動画はこちらをご覧ください



ヤマサハウス株式会社のお取組み

会社概要

1948年に山佐産業株式会社として設立された。2015年に組織変革・再編を行い、ホールディングス体制へとなる。鹿児島県鹿児島市に本社を構える。「すべての人間は豊かでなければならない」という創業者佐々木亀蔵の考えから、「郷土が誇る企業をつくる」を創業理念とし、木材業を原点として建設、家具、公共工事など事業を展開。「鹿児島を、鹿児島に関わる人たちにとって、もっと、ずっと住みたい場所にする」という企業使命観を掲げ、地域の課題に向き合い続けている。



鹿児島に根ざし、暮らしの安心を届ける創業77年のトップメーカー

ヤマサハウスは、1948年に木材業として創業し、現在は鹿児島県内で1万棟以上の住宅供給実績を誇るトップ住宅メーカー。「郷土が誇る企業をつくる」という理念のもと、「いざという時にも、日常を守る家」をつくる。

災害多発地域で痛感した「使える備蓄」への課題

自然災害を通して学んだ経験から、BCP（事業継続計画）への意識が非常に高く、「建てて終わりではない」という責任感を強く持つ。しかし、複数拠点や多様な職種に合わせた備蓄の配置、旧倉庫の物理的制約、既存備蓄品の老朽化と分散管理が困難で、「使える備蓄」になっていないという実態があった。

あるけど使えない備蓄からの脱却！導入を決めた理由

従来の備蓄品は「あるにはあるが使えない」状態に強い問題意識を持ったことがプロジェクトの起点。部門横断チームが組成され、市販品リサーチを通じて東京海上日動の商品を知ること。長年の信頼関係があり、実務視点での提案を受け、全社導入を決定。

課題解決と安心を両立！備蓄品がもたらした効果と社員の声

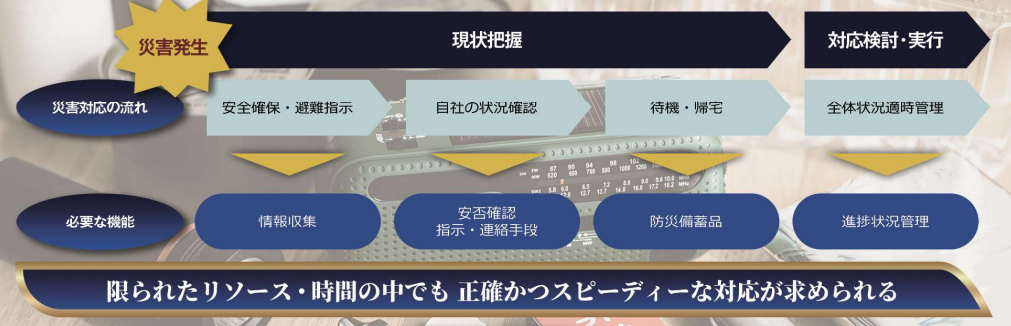
「ユニット1DAYレスキュー」と「BOUSAI BLOCK」の導入は、防災備蓄の課題を解決。A4サイズで個人管理が可能な「ユニット1DAYレスキュー」や、社用車に搭載できる「BOUSAI BLOCK」により、実効性と管理のしやすさが向上。社員からは「想像以上に実用的で安心」との声が寄せられ、防災意識の向上にも繋がっている。

住宅から持続可能な暮らしを提案するヤマサハウスの未来

住宅を起点とした「暮らしのソリューション提供企業」への進化を目指し、リフォーム・リノベーション、脱炭素、省エネ、再生可能エネルギー活用など、「持続可能な暮らし」の提案を推進。社員の安全を守り、地域に信頼を届ける「備える文化」を社会に還元することで、社会貢献と顧客満足度向上を図る。



企業に求められる災害対応



ユニット1Dayレスキュー

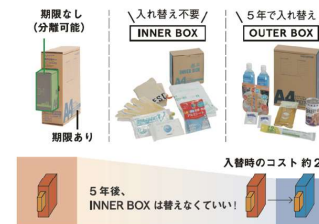
1日1人分の備蓄品をまとめたボックス

期限のある内容物のみを入れ替えることが可能なため、入れ替え時のコストを削減。A4サイズのためデスクやロッカーに収納可能で、保管スペースと緊急時の配付の不安を解決



特長1 入れ替え時のコスト削減

期限のある外側(OUTER BOX)だけを入れ替え、期限のない内箱(INNER BOX)を継続使用することで、コストを約2/3に抑えることができます



特長2 保管スペース削減&すぐに利用可能

被災直後でも配布を待つことなく即利用可能。配布や保管・管理のロード削減が可能。保管用のスペースの確保が不要・削減される場所を忘れてしまうリスクも低減



特長3 品目選定の悩みを解消する3つのバリエーション

INNER BOXに選べる3つのセットをご用意。ベースの「基本」に加え、帰宅支援用の「帰宅」、滞在支援用の「宿泊」を選択可能

INNER BOX 基本	必要なものを詰め込んだベーシックタイプ
INNER BOX 宿泊	非常用トイレを増量し、衛生用品を加えた宿泊タイプ
INNER BOX 帰宅	ポンチョやホイッスル、スマホ充電器を備えた帰宅タイプ

防災備蓄例

車載用防災セット BOUSAI BLOCK for CAR

-20℃～80℃の広い温度範囲での保管に対応しているため、車内でも安心して保管が可能。車での被災から避難所等への移動を想定し厳選されたラインナップ。

【主な内容物】

WAYポンチョ×1、反射材付きグローブ×1、緊急用ホイッスル×1、使い捨て簡易ライト×1、7年保存水×1、3M社製防塵マスク×1、伝言カード&防災ペン×1



ユニット1Dayレスキュー 帰宅セット

災害発生時に帰宅を希望される方向けに、災害用スマホ充電器や携帯用トイレ等、必要な備蓄品をまとめたセット。同封のナップザックにいれることで持ち運びにも対応できる。

【主な内容物】

アルファ化米×1食、ペーパー歯磨き×2枚、携帯型セーフティライト(12時間発光)×1 等

